

務活動視察報告書

2025 年 7 月 30 日

八女市会議員 森茂生

視察日程 2025 年 7 月 23 日～26 日

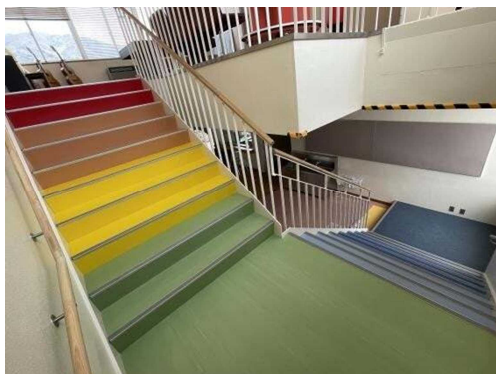
(視察先)

- 1, 岐阜県高山市花岡町 2 丁目 18 番地 **学びの多様化教室「にじ色」** (24 日午後 2 時)
- 2, 岐阜市司町 40 番地 1 **学びの多様化学校「草潤中学校」** (25 日午後 3 時)

学びの多様化教室「にじ色」 令和 6 年 4 月の開室

「にじ色」は、一之宮地域にある市立宮中学校が本校となる学びの多様化学校分教室で、県内の公立では「学びの多様化学校」はありますが、分教室としての設置は県内初となります。高山市内だけでなく飛騨市、下呂市、白川村の中学生も受け入れ対象となり、4 月から 1～3 年生の 13 名が通う。

全国的に不登校児童生徒数が増えている昨今、高山市でもその数は増加傾向にあります。この現状に対応するため、高山市教育委員会では不登校などの生徒が多様な学習ができる新たな居場所として、令和 2 年度より、学びの多様化教室「にじ色」の開室に向けた準備を進めてきた。令和 6 年 2 月には文部科学省の指定を受け、令和 6 年 4 月に「にじ色」を開室。



施設は、旧一之宮保健センターであった建物をリニューアルし、市内小中学校の用務職員さんが、教室の壁のペンキ塗りや個別学習スペースの間仕切りを作りました。生徒が心地よく過ごせるよう、それぞれの教室にはイメージカラーを決めて空間を作り出しています。

国語の学習ができる「ロジック」のイメージカラーは緑で、幅の広い白い机と、座り心地のよいイスが、生徒の学習を支えます。生徒は登校したらロッカーに荷物を入れた後、その日の予定を自分で決めたり、軽運動などを行ったりする時間「ボイジャー」を行います。ソファが置かれた「リラックススペース」があり、ゲームや本などを自由に使うことができます。



～～にじ色に込められた願い～～

不登校は、多様性の一つ、その子が自分らしく学べる居場所をつくりたい。

将来の社会的自立に向けて

- 通学 行き・基本的にはスクールバス（市役所発） 帰り・タクシー（市役所着）
- 自家用車、公共交通機関利用への補助金あり
- 給食、弁当でもいい
- 登校時間 9 時半 ●服装自由
- 先生とは呼ばない
- すぐ手の届くところに遊具・漫画あり
- 「やらない」「休む」も大切な決断

学びの多様化学校「草潤中学校」

不登校特例校・草潤中学校が目指す、新たな学校の形とは？公立校が挑む「学校らしくない学校」づくり



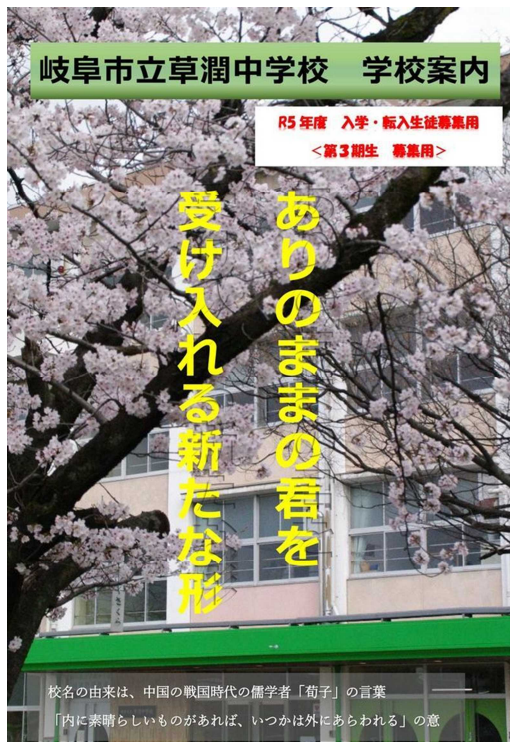
2021 年 4 月、不登校特例校として岐阜市立草潤中学校が開校した。「学校らしくない学校」をうたう同校では、私服可、通学スタイルを 3 つのコースから選択することができ、担任も選択制にするなど、公立校としては珍しい制度が多く、話題を呼んでいる。

2 回にわたり開催された学校説明会には、234 名の児童生徒とその保護者が参加し、40 名定員をはるかに超える入学希望者となった。（現在は定員は 50 名）

草潤中学校はもともと、少子化に伴う児童数の減少により 2017 年に統廃合された小学校の跡地を利用しています。

「不登校の生徒が登校率 85%の奇跡」岐阜の"バーバパパのがっこう"に殺到する 全国の教育委員会が驚愕の光景

学校に行けない児童・生徒に配慮し、学習指導要領にとらわれない教育課程をもつ「不登校特例校」。まだ全国 10 都道府県に 21 校（うち公立 12 校）しかないが、開校 1 年半で視察が殺到している（みんなの教育技術ホームページより）



子どもが学校に合わせるのではなく「学校が子どもに合わせる」

当時の教育長・早川さんは

岐阜市に限ったことではありませんが、型にはめ過ぎてるとということが一つ理由として挙げられると思います。

要するに、**子どもたちの突出した才能を折る危険性が、「いい学級」と評価される学級にこそある。**

相変わらず過度な団結力を求めている。それはそれで感動するんだけど、そこからはみ出る子がいるということに対して寛容にならないといけない。これからはもっと子どもたちの声に耳をすませていく必要があります。子どもたちが学校や世の中に持つ違和感こそが次の発展可能性なんですから。

だからこそ草潤中学校では、「**学校らしくない学校」「ありのままの君を受け入れる新たな形」**を公立発でつくることにしました。

岐阜市では 2019 年にいじめによる自死が起きています。

それをきっかけに、いじめを経験している子どもたちも含め、多くの子どもたちとディスカッションをさせていただきましたが、**私たちが思っている以上に彼ら・彼女らは複雑な世界に生きている**ことを知りました。

そういうことに苦しんでいる子どもたちがいるんだということに気がつかない先生や学校であったということについては、非常に反省すべきで、**子どもが学校に合わせるのではなく、学校が子どもに合わせない**といけない、そう強く思いました。

常に今までの発想と逆の発想で考える訓練をしなければいけません。

京都大学総合博物館准教授の塩瀬隆之さんには、設置準備の段階からアドバイザーに入ってもらっていますが、そういった外部の方だったらどう考えるだろうとか、そういう視点も大事になってくると思います。

開校時の先生は、異動ではなく手挙げ方式で募集



草潤中学校が他の中学校と大きく異なる点は、そのユニークなカリキュラムだ。年間授業時数は標準時数 1015 時間より少ない 770 時間に設定。主要 5 教科は、3 学年共通で国語、数学、外国語が各 105 時間、理科と社会は 70 時間。イメー

ジとしては各教科とも週に1コマずつ少ないといった感じだ。学習内容は一般校と同じだが、難易度は下げている。



先生になかなか声をかけきらない生徒もいるため、机の前に3種類の△すいの置物が用意されている。赤は「声をかけないで」、黄色は「声をかけてください」、青は「？」この様に小さなところまで気を使っているのには感心しました。

○欠席の場合は欠席とせず「自宅」（自宅でオンラインでも授業が受けられるため、あるいは自宅で休憩しているための配慮のようです）

○遅刻の場合は遅刻とせず「ゆっくり登校」と表現